山地災害を守る人々の力

女川小学校（おながわ）　五年　高橋（たかはし）　結愛（ゆうあ）

私の住む女川町は、東日本大震災で大きな被害がありました。町の中には、地震や津波から守るための看板や標識がたくさんあります。みんなで、災害に備えようとしていることが分かりました。女川町は、海がすぐ前にあり、後ろには山があります。私は、山から災害が起きるということをあまり考えたことがありませんでした。

この前、日本治山治水協会というところで作った「山地災害に備える」というパンフレットを見せてもらいました。山から土砂が崩れてくる写真を見て、もし、下に人や車がいたらどうなるか、恐ろしいと思いました。災害は突然くるのではなく、災害の前には、危険信号があるそうです。中には、八つの危険信号が書かれていました。私が一番こわいと思ったのは、湧き水が増えるということです。がけから、突然たくさんの水がふき出して、

人が転んだり、家が流されるかもしれません。ふだんから、気をつけていないと変化に気づかないでしょう。びっくりしたのは、山の木がかたむいたり、亀れつが入ったりすることもあるということです。私は、津波のすごさは聞いていましたが、山も海のように動いていて、災害を起こすことを知って、少し怖くなりました。

でも、パンフレットを読むうちに、災害を守ろうとするたくさんの人たちがいることを知りました。山地災害ヘルパーさんは、ボランティアで全国に四千五百人もいるそうです。危険な場所を調べてみんなに伝えるのが仕事です。ヘルメットをかぶり、救命胴衣を着けて山奥に入っている様子を見て、危険とともなり合わせなのに、みんなの命を守る仕事をしていることがすごいと思いました。

また、山くずれを防ぐ写真を集め、コンクールをしてたくさんの人に山地災害から守る工夫を知ってもらおうとしていることも分か

りました。私の家の近くでも、同じようなものを見たことがあり、〝これは山くずれを防ぐために、あったんだなと〟、初めてわかりました。

災害を防ぐ標語もありました。「木の根っこ　山を崩さぬ　大きな手」というのは、木の根っこ、この生命力がすごく、土をしっかりおさえる自然の強さがあるので、災害を守る手助けをしているのだと思いました。考えたひともすごいと思いました。このようなパンフレットを通して、みんながが山地災害の怖さや守る工夫を考えていくことが大切だと思いました。

私の父は、役場の産業振興課で働いていて、山地災害のパンフレットを配ったりするそうです。災害のこともいろいろ教えてもらいました。夏休みには、学校の近くにある砂防ダムを見せてもらいました。最初は、山の中に何でこんなものがあるんだろうと思いました。砂防ダムは、山津波がきても、どう水が大きく広まらないようにしているのです。女川

町では、海の災害だけでなく、万が一のためにもこのようなものを作っているので、私たちは安心して暮らせるのだと思いました。

私たちは、「自分の命は自分で守る」ことを教わりました。危険信号にすぐに気付くことがすぐに避難することも大切です。それと同じように、災害から守るたくさんの工夫を、していることがたくさんの人の力があることを、知ることも大切なことだと思います。